



いもち病の発生に警戒を!!

● 6月下旬から曇りや雨の日が多く、『いもち病』が発生しやすい天候が続いています。更に今後も続く見込み。

● 至急、ほ場を確認し、防除を徹底して下さい!!

※葉いもちに罹病した場合、収量の減少・品質の低下をまねきます。



葉いもちの病斑

中央部が灰白色で周辺は褐色の紡錘形。葉の裏面は灰色。

胞子は夜間に飛散し、気温が20~30℃で葉が結露などにより10時間以上濡れていれば感染。25℃前後で日照不足の気象条件が続くと上位葉に進展し、穂いもちの発生要因となる。

① こまめにほ場を見回りし、早期発見に努めて下さい。

- 常発地や葉色の濃いほ場を重点に見回りして下さい。
- 予防剤を施用していないほ場やいもち病に弱い品種は、特に注意が必要です。
※ 特に注意する品種：コシヒカリ、カグラモチ、ひやくまん穀、飼料用米(ゆめあおぼ)

② 葉いもちを確認したら、すぐに防除して下さい。

- 周辺ほ場の発生状況も確認し、広範囲に発生している場合は、地域ぐるみで防除して下さい。

ブラシン粉剤DL	4kg/10a	使用時期：収穫7日前まで 成分数：2成分 使用回数：2回以内
または		
ブラシンフロアブル	1,000倍希釈 60~150リットル	※ 志賀米・能登米の場合は、農薬の成分回数に注意下さい。

※ 梅雨の晴れ間を見計らい、散布後3~4時間の無降雨が続くタイミングで散布

- ずり込み症状を呈するほ場では、4~5日後に薬剤の再散布を行って下さい。

③ 葉いもち発生の有無に関わらず、基幹防除を徹底して下さい。

【1回目】	出穂直前	トレバリダビーム粉剤DL	いもち・紋枯・カメシ	2成分
【2回目】	出穂7~10日後	ラブサイドキラップ粉剤DL	いもち・カメシ	2成分
【3回目】	出穂14~17日後	キラップ粉剤DL	カメシ	1成分

病害の対策は、①「治療より予防」 ②「早期発見・早期防除」が鉄則